令和３年度　第１回宮崎県観光審議会議事録【概要】

【会長・副会長の選任】

会　長：杉山　智行
副会長：有田　恒雄

【事務局説明：資料１、２　条例及び観光振興計画改定スケジュールについて】

異議なし

【事務局説明：資料３～資料８　本県観光の現状と課題について】

〇委員
ＡＩや様々なデジタルなどを駆使した新たな観光というのも今後は始まってくるのではないか。また、メタバースなどハイブリッド型の取組も出てくるので、そのような視点も入れて計画を考えていかなければならない。

〇委員
コロナ禍であったとしても受け入れる体制が必要で、このメニューで、こういうルールであれば安心といったものを作成しなければならない。コロナがあったとしても本当に安心して宮崎に呼べる仕掛けが必要である。

〇委員
アウトドアツーリズムなどの様々な取組を実施していく中で、年代別にどういう嗜好があって、これをどの程度どういうふうに誘致するのかといったところが、これからの論点になってくるのではないか。

〇委員
７０代、８０代という方が今動けなくなってきたので、観光的にメニューが変わってきたのかなと思う。団塊世代が動けなくなってきており、観光のボリュームゾーンが団塊ジュニアに移っている。団塊ジュニアは検索で物を考え、携帯電話で見れるかどうかというのが、議論になってくるので今後はそういったものが重要になってくると感じている。

〇委員

旅行の細分化、プライベート旅行など趣味嗜好が多様化する中で、消費者のニーズを捉えていくためには、データが重要になってくる。今はインスタグラムや YouTube など個人間の情報のやりとりが多いので、その点も意識していかないといけない。県内の観光施設や旅行者を受け入れる方が、情報発信力をつけていくために、県や市がサポートしていくと、個人間同士の情報のやりとりが活発化すると思う。

〇委員

団体旅行が減ってきているが、今後は、団体旅行というものが人数や傾向なども含めて形が変わってくるのではないかと思う。団体旅行はやはり観光消費に必要なのでターゲットとしていくべきである。

〇委員

体験型の観光が非常に重要になってくると思う。また、メタバースについても可能性があると思う。各観光地が潤っていくことが課題だと思うので、そのような部分を考慮して、施策を考えると良い。

＜その他（意見交換）＞

〇委員

コロナ禍で、これまで来ていなかった県内の方にも来ていただいている。宮崎県内の子どもたちに県内の魅力を知ってもらうことが、とても大切であり、そういったところをしっかりと、教育の一部として知ってもらうことが必要である。

また、県内の各観光地を流れるように、いろんな方が気軽に県内を動けるようなインフラ整備が必要である。

〇委員

宮崎県の観光の計画を考える上で、観光に来られる方のきっかけを整理する必要がある。１つは既にあるような観光パンフレットや観光サイトのきっかけ、それ以外に、観光のきっかけになるようなきっかけ予備軍となる話題の整理や県民一人一人の呼びかけといった取組が今後はより重要になってくると思う。

〇委員

今までの観光資源をベースにインバウンドを取り込もうとしても限界がある。やり方によっては、数はそこまで急激に伸ばせなくても売上は伸ばせる可能性がある。色々なプログラムやアクティビティを継続して、作っていかないといけない。観光につながりのある産業と一緒に栄えていくことが必要である。

○委員

お客様の感動、貴重な体験というものを生み出していって、価値に変えていく時代である。それをしっかりやって、お金をいただくということをしていかないと高付加価値にならないと感じている。

○委員

スポーツランドについては、アウトドアスポーツが多いので、インドアスポーツも考えていく必要がある。コンサート等、多目的に使えるような中核施設数を伸ばすことも必要だと思う。